

# Contents

演劇芸術監督 小川絵梨子 .....	2
<hr/>	
2023/2024シーズン 演劇 ラインアップ .....	4
シェイクスピア、ダークコメディ交互上演 尺には尺を 終わりよければすべてよし .....	5
フルオーデション6 東京ローズ .....	9
デカローグ I～X .....	13
<hr/>	
こつこつプロジェクト — ディベロップメント — ・こつこつプロジェクト Studio 公演 .....	21
ギャラリープロジェクト .....	22
<hr/>	
公演一覧(1997.10～2023.7) .....	23

## 2023/2024 シーズン 演劇

### 演劇芸術監督 小川絵梨子



2023/2024シーズンの幕開けは、シェイクスピアの『尺には尺を』と『終わりよければすべてよし』の上演となります。2009年から長きに渡って新国立劇場演劇でのシェイクスピア歴史劇上演に携わって下さったカンパニーが再び集結し、2023年の秋、新たな試みが始まります。この二作品は伝統的な悲劇や喜劇には分類し難い「問題劇」と呼ばれ、またその物語を牽引する中心的人物として女性が描かれているシェイクスピア作品でもあり、これまでの歴史劇シリーズとはまた違った視点と魅力を持った作品となります。10年以上の歴史を積み重ねるカンパニーが描くこの度の作品では、俳優それぞれが二つの役を演じ、この二作品を表裏一体として交互に上演して参ります。

この二作品に続いて、12月にはフルオーディション企画の第6弾『東京ローズ』をお届けいたします。こちらは本企画初となるミュージカル作品であり、イギリスで2019年に初演されたばかりの大変新しい作品になります。太平洋戦争の時代に東京ローズと呼ばれアナウンサーとして活躍した実在の人物、アイバ・戸栗・郁子を主人公とした物語です。国家同士の戦争により個人としてのアイデンティティや尊厳を奪われ、人種や国籍の違いから二つの国において偏見と差別を受けることとなったこの主人公の物語は、決して過去のものではなく、今日の現代の物語でもあると考えています。登場人物は女性6人で、この6人全員がそれぞれにアイバ・戸栗・郁子を演じ、また他の様々な役柄も演じていきます。パワフルな楽曲と共に新たな可能性に満ちたミュージカル作品となります。

2024年の春には、『デカログ I~X』と題した十遍の連作の連続上演を予定しております。『デカログ』はポーランド出身の映画監督ケンシロフスキが1980年代に発表した十遍の連作ドラマであり、これを原作として新たな舞台作品を制作致します。この作品が生み出された80年代半ばのポーランドは戒厳令が解除された直後であり、ケンシロフスキ監督の言葉によると「混乱、緊張、絶望、もっと悪くなるんじゃないかという恐れがはっきりと読み取れ、世界中にも不安が広がっているのを肌で感じた」時代であったと言います。監督が感じたことは、現代に生きる多くの人々が今まさに感じていることでもあるように思います。この『デカログ』は旧約聖書の十戒をモチーフに、とある団地に住む人々の人生を描いた物語であり、普遍的な視点と冷徹な観察眼を持って人間の愛と弱さが語られます。登場人物たちは皆どこにでもいるような隣人として描かれており、日々を生きる中で一つ一つの選択に悩み、より良い方向へ向かっていきたいという希望の心と、何をしたら正しいのかを理解していながらもそれを選び取ることが出来ない弱さも持ち合わせています。不完全な存在である人間そのものとその有り様をありのままに見つめ、ひたすらに真っ直ぐに向き合おうとするこの物語は、断罪の物語ではなく寧ろ人間を信じたいという願いと希望の物語でもあると考えています。十遍の物語はそれぞれ独立していつつ、登場人物はみな同じ団地の住人であることから互いに繋がってもおり、十遍からなる壮大な一つの物語ともなっています。

こつこつプロジェクトでは新しく第三期がスタートする予定です。また、第二期の参加作品である三好十郎作『夜の道づれ』ではこれまでクロードで行っていた試演を発展させて、新しく「こつこつプロジェクトStudio公演」として公開での試演会を行うべく、その実現に向けてプロジェクトを継続しております。さらに第二期の『テーバイ』も劇場での上演に向けての準備を進めております。その他、ギャラリープロジェクトや中高生のための演劇ワークショップも引き続き予定し、またこの3

年間開催が難しかった各公演でのシアターツアーや対面でのワークショップも行いたいと考えております。

新しい試みに挑戦することや、学びと改善を繰り返していくことと共に、これまで続けて来たことをゆっくりではありますがこつこつと積み上げ続けていくことも大切にして参りたいと思っております。

今シーズンの新国立劇場演劇を楽しんで頂けたら幸いです。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

〈プロフィール〉

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。

近年の演出作品に、『おやすみ、お母さん』『管理人／THE CARETAKER』『ダディ』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。

新国立劇場では『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首―幻に長崎を想う曲―』『星ノ数ホド』『OPUS/作品』の演出のほか、『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。

# Drama

## 2023/2024 シーズン 演劇 ラインアップ 〈計 4 演目〉

2023 年 10～11 月  
シェイクスピア、ダークコメディ交互上演

### 尺には尺を 終わりよければすべてよし

作: ウィリアム・シェイクスピア  
翻訳: 小田島雄志  
演出: 鶴山 仁

2023 年 12 月

フルオーデション6

日本初演

### 東京ローズ

台本・作詞: メリー・ユーン / キャラ・ボルドウィン  
作曲: ウィリアム・パトリック・ハリソン  
翻訳: 小川絵梨子  
訳詞: 土器屋利行  
音楽監督: 深沢桂子  
演出: 藤田俊太郎

2024 年 4～7 月

新作

### デカローグ I～X

原作: クシシュトフ・キェシロフスキ / クシシュトフ・ピェシェヴィチ  
翻訳: 久山宏一  
上演台本: 須貝 英  
演出: 小川絵梨子 / 上村聡史

シェイクスピア、ダークコメディ交互上演

2023年10月18日～11月19日

# 尺には尺を

Measure for Measure

# 終わりよければすべてよし

All's Well That Ends Well

●会員先行販売期間：2023年7/29(土)～8/8(火)

●一般発売日：2023年8/11(金・祝)

中劇場

料金 S:8,800円 A:6,600円 B:3,300円

作：ウィリアム・シェイクスピア

Written by William SHAKESPEARE

翻訳：小田島雄志

Translated by ODASHIMA Yushi

演出：鶴山 仁

Directed by UYAMA Hitoshi

出演：岡本健一、浦井健治、中嶋朋子、ソニン、立川三貴、吉村 直、木下浩之、那須佐代子、勝部演之

小長谷勝彦、下総源太郎、清原達之、藤木久美子、川辺邦弘、亀田佳明、永田江里、内藤裕志

Cast :

OKAMOTO Kenichi, URAI Kenji, NAKAJIMA Tomoko, Sonim, TACHIKAWA Mitsutaka, YOSHIMURA Sunao,

KINOSHITA Hiroyuki, NASU Sayoko, KATSUBE Nobuyuki, KONAGAYA Katsuhiko, SHIMOFUSA Gentaro,

KIYOHARA Tatsushi, FUJIKI Kumiko, KAWABE Kunihiro, KAMEDA Yoshiaki, NAGATA Eri, NAITO Hiroshi

## 作品

『尺には尺を』と『終わりよければすべてよし』の二作品は、シェイクスピアの戯曲のなかでは上演回数もそれほど多くはなく、またどちらも、最初の全集では“喜劇”に分類されていますが、ストーリーもやや複雑で、登場人物も屈折したキャラクターが多く、“暗い喜劇（ダークコメディ）”と呼ばれています。

しかしながら単に暗いだけではなく、人間の内面、時に自我と欲望をむき出しにした登場人物たちは、同時期に書かれた『ハムレット』から始まる四大悲劇の主人公たちを彷彿させる、魅力的で深い人物造形に満ち、また物語も終幕の大団円に至るまで、息をもつかせず展開するなど、隠れた傑作と言っても過言ではありません。12年に亘りシェイクスピアの歴史劇を上演してきた新国立劇場のカンパニーが、上演するに相応しい作品群なのです。

## 尺には尺を 終わりよければすべてよし

### 物語

#### 『尺には尺を』

ウィーンの公爵ヴィンセンシオは、突然出立すると告げ、後事を代理アンジェロに託し旅に出る。だが実は、密かにウィーンに滞在したまま、アンジェロの統治を見届ける目的があった。というのも、ウィーンではこのところ風紀の乱れが著しく、謹厳実直なアンジェロが、法律に則りそれをどう処理するのか見定めようというのだ。

そんな法律のなかに、結婚前の交渉を禁ずる姦淫罪があり、19年間一度も使われたことがなかった。アンジェロはその法律を行使し、婚姻前にジュリエットと関係を持ったクロードディオに死刑の判決を下す。だがクロードディオはジュリエットと正式な夫婦約束を交わしており、情状酌量の余地は十分にあったのだ。

それを知ったクロードディオの妹、修道尼見習いのイザベラは、兄の助命嘆願のためアンジェロの元を訪れる。兄のために懸命に命乞いをするイザベラの美しい姿に、アンジェロの理性は失われ、自分に体を許せば兄の命は助ける、という提案をする。それを聞いたイザベラはアンジェロの偽善を告発すると告げるのだが、彼は一笑に付し、「誰がそれを信じる？お前の真実は、私の虚偽には勝てぬ」とイザベラに嘯く。

クロードディオの命は？イザベラの貞節は？すべてはアンジェロの裁量に委ねられる。

#### 『終わりよければすべてよし』

ロシリオン伯爵夫人には一人息子バートラムがいた。彼はフランス王に召しだされ、故郷を後に、パリへと向かう。だが王は不治の病に蝕まれ、命は長くないと思われていた。

もう一人、伯爵夫人の元には侍女として育てていたヘレナという娘がいて、その父は、先ごろ他界した高名な医師だった。彼はヘレナに、万病に効く薬の処方箋を残していた。そしてヘレナは、実は密かに、身分違いのバートラムのことを慕い、妻になりたいと願っていた。

その想いを聞いた伯爵夫人は、ヘレナにバートラムを追ってパリへ向かうことを許す。パリに到着したヘレナは王に謁見し、亡父から託された薬で王の病を見事に治してみせる。王は感謝の印として、ヘレナに望みのものを褒美として与える約束をする。ヘレナはバートラムとの結婚を望むが、彼はそれを拒否し、自ら志願して、逃げるように戦地フィレンツェへ赴いてしまう。残された手紙には「私を父親とする子供を産めば、私を夫と呼ぶがいい。だがその時は決して来ないだろう。」と認められていた。

ヘレナは単身、バートラムを追ってフィレンツェへと旅立つ。愛する彼と結ばれるために。

## 尺には尺を 終わりよければすべてよし

### 演出家からのメッセージ

#### 鵜山 仁

---

物の見た目や物を見る立場が変わると、人の心は他愛無く変化してしまう。加害者のはずが被害者になり、被害者のはずが加害者になる。とすれば「生」の世界はたちまち「死」の世界に、「死」の世界がもしかしたら「生」の世界に反転するかもしれない。『尺には尺を』と『終わりよければすべてよし』。この二つの「問題劇」にしかけられた二つのベッドトリックは、そんな人生と世界の変容を象徴しているような気がします。

三年に及ぶコロナ禍、僕にとって驚きだったのは、目にも見えない、生物だか無生物だかも判然としないウイルスという存在に、世界がここまで翻弄されてしまったことです。そして昨年二月以来のロシアによるウクライナ侵攻は、「戦争」が、実は平穏に見えたわれわれの日常の、すぐ隣に息を潜めていたことを痛感させました。

われわれの目に見えていたのはなんと狭い世界だったのか、ならば舞台という特権的な場では、生きている現実の人間だけではなく、目には見えない世界、死者たちの歴史や、ウイルスも含めた森羅万象、あらゆるものとの交信を心がけたい。ここでは日常生活の利害、効率、善悪を一旦度外視した、遠大、深遠なコミュニケーションが求められます。そのためにあらゆる手段を動員して見えない者たちに呼びかけ、見えない者たちの呼びかけに応えたい。

2009年の『ヘンリー六世』から2020年の『リチャード二世』に至るまで、新国立劇場の舞台で、シェイクスピアの歴史劇を創ってきた仲間たちとの新しいチャレンジ。これを機会に是非、もう一歩先の世界に、分け入ってみたいと思っています。

## 尺には尺を 終わりよければすべてよし

### スタッフ プロフィール

#### ウィリアム・シェイクスピア

William SHAKESPEARE

イギリス、エリザベス朝の劇作家、詩人。1564年～1616年。

生涯に37本を越える劇作を残し、死後出版された全集ではその作品が喜劇、歴史劇、悲劇に分類された。そのうち喜劇は16本を数える。19世紀以降には、『ハムレット』『尺には尺を』『終わりよければすべてよし』『トロイラスとクレシダ』の四作品は問題劇と称されることもある。また、『尺には尺を』はワーグナー初期の歌劇『恋愛禁制』の原作としても知られる。

37本の作品群は21世紀の今日に至るまで、本国イギリスは言うに及ばず全世界で上演され続けている。我が国でも、明治期に翻案作品が紹介されて以来さまざまな形で上演され、伝統芸能から小劇場の作品まで広範囲に影響を与えている。

#### 鶴山 仁

UYAMA Hitoshi

舞台芸術学院、文学座附属演劇研究所を経て、1981年、文学座座員に。83年から1年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。

2020年、紫綬褒章受章。21年、第62回毎日芸術賞受賞。

最近の演出作品に『廃墟』『トロイラスとクレシダ』『マンザナ、わが町』『ヴェニスの人』『怪談 牡丹灯籠』『女中たち』『化粧二題』『叔母との旅』『紙屋町さくらホテル』『スカラムーシュ・ジョーンズor七つの白い仮面』『から騒ぎ』『吾輩は漱石である』『ミュージカル 洪水の前』など。

新国立劇場では、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『コペンハーゲン』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鶴』『ヘンリー六世』『イロアセル』『リチャード三世』『桜の園』『ヘンリー四世』『ヘンリー五世』『リチャード二世』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出。

『ヘンリー六世』の演出で10年、芸術選奨文部科学大臣賞、第17回読売演劇大賞 最優秀演出家賞を受賞。04年、16年にもそれぞれ読売演劇大賞 最優秀演出家賞を受賞している。07年9月より10年8月まで新国立劇場演劇芸術監督を務めた。





フルオーデション Vol.6

2023年12月7日～24日

<日本初演>

Japan Premiere

# 東京ローズ

TOKYO ROSE

小劇場

●会員先行販売期間: 2023年9/30(土)～10/10(火)

●一般発売日: 2023年10/14(土)

料金 A:7,700円 B:3,300円

台本・作詞: メリー・ユーン / キャラ・ボルドウィン

Book and Lyrics: Maryhee YOON / Cara BALDWIN

作曲: ウィリアム・パトリック・ハリソン

Composer: William Patrick HARRISON

翻訳: 小川絵梨子

Translator: OGAWA Eriko

訳詞: 土器屋利行

Lyrics Translator: DOKIYA Toshiyuki

音楽監督: 深沢桂子

Musical Director: FUKAZAWA Keiko

演出: 藤田俊太郎

Director: FUJITA Shuntaro

出演: 飯野めぐみ、シルビア・グラブ、鈴木瑛美子、原田真純、森 加織、山本咲希

Cast: IINO Megumi, Sylvia GRAB, SUZUKI Emiko, HARADA Mahya, MORI Kaori, YAMAMOTO Saki

## 作品

全ての出演者をオーデションで決定するフルオーデション企画の第6弾として初のミュージカル作品『東京ローズ』をおおくりします。2019年にイギリスのBURNT LEMON THEATREが製作した本作は、戦中戦後に歴史の波に飲み込まれながら、アメリカと日本、二つの祖国に翻弄された女性が自身の権利を奪われながらも、決して諦めることなく戦う姿を描く、女性6人によるミュージカル。演出は、新国立劇場では『東京ゴッドファーザーズ』を手掛け、緻密な物語の世界観を丁寧に描き出した藤田俊太郎が担います。

22年12月から始まったオーデションには936名の応募者がエントリーし、二度にわたる映像審査を経て、1月下旬から2月初旬にかけて一次、二次選考を実施し、6名の出演者が決定しました。

### <BURNT LEMON THEATREと"TOKYO ROSE">

BURNT LEMON THEATREは2017年に活動を開始した英国の女性を中心メンバーとした演劇集団。"TOKYO ROSE"の作家キャラ・ボルドウィン、英国版の演出を手掛けたハンナ・ベンソンをはじめ、メンバーの多くが演出と俳優、振付と俳優、作曲と俳優、など公演においては色々な役割を兼任しながら作品創作を行っている。本国では次代を担う演劇集団として、今最も注目を浴びる演劇集団である。

"TOKYO ROSE"は19年にエディンバラ・FRINGEで初演され、完売したBURNT LEMON THEATREの代表作で、その年のUNTAPPED AWARD、Les Enfants Terribles Stepladder Award を受賞。ディベロップを重ねながら21年に英国内ツアーを行った。台本・作詞はメンバーのメリー・ユーンとキャラ・ボルドウィン、作曲はウィリアム・パトリック・ハリソンによる。日本軍が第二次世界大戦中におこなった連合国側向けプロパガンダ放送の女性アナウンサー「東京ローズ」として唯一知られているアイバ・戸栗・郁子を描いた物語である。

### 物語

「Who is Tokyo Rose？」

アイバ・戸栗・郁子は 1916 年にアメリカで生まれアメリカで育った日系二世。日本語の教育を受けることなく 1920～30 年代のアメリカで青春を過ごした。叔母の見舞いのために 25 歳で来日し、すぐに帰国するはずが、時代は第二次世界大戦へと突入、アメリカへの帰国も不可能となってしまふ。そこでアイバは、母語の英語を生かし、タイピストと短波放送傍受の仕事に就く。戦争によって起こる分断や、離散、別れ。多くの人々を襲った不幸がアイバ自身とその家族の身にも降りかかる。

やがてラジオ・トウキョウ放送「ゼロ・アワー」の女性アナウンサーとして原稿を読むことになったアイバ。その女性たちをアメリカ兵たちは「東京ローズ」と呼んだ。終戦後、アイバが行っていたことは、日本軍がおこなった連合国側向けプロパガンダ放送であったとされ、本国アメリカに強制送還され、国家反逆罪で起訴されてしまふ。

本国アメリカから、戦中日本の悪名高きラジオアナウンサー「東京ローズ」であった罪を問われることとなったアイバ。彼女は本当に悪人だったのか……？

**翻訳家からのメッセージ****小川絵梨子**

『東京ローズ』は、BURNT LEMON THEATRE が制作したミュージカル作品です。今年の一月に BURNT LEMON THEATRE の劇作家、作曲家、演出家の方々にお会いする機会があり、この度の新国立劇場での公演を大変喜んで下さっていました。また翻訳等で質問があればいつでもどうぞ、とあたたかく仰って下さり大変にありがたく、心強く思っております。アメリカ国籍を持っていた『東京ローズ』の主人公は太平洋戦争後に敵国に加担としたとして逮捕され、国家反逆罪で法廷に立たせられました。その後、有罪判決を受け国籍を剥奪されますが、一方、日本で働いていた頃には敵性外国人と見做され、警察から圧力をかけられていたといいます。国家同士の戦争によって自らの存在を否定され、激しい人種的偏見によって二つの国で尊厳を奪われた個人の物語。この『東京ローズ』は決して過去のものではなく、今の時代の物語でもあると思っております。

**演出家からのメッセージ****藤田俊太郎**

新国立劇場フルオーディション企画第 6 弾。オーディションを通して、日々大きな喜びを感じました。歌唱映像で参加して下さった 936 名の歌声には魂、唯一無二の魅力がありました。全員とお会いすることは叶いませんでしたが、対面での選考を共にした女優の演技者としての実力に心が熱くなりました。素晴らしい役者の力、演劇の力をあらためて感じて震えるような気持ちです。

主人公の日系二世アイバ・戸栗・郁子は生涯を通じて翻弄され続けます。「東京ローズ」と呼ばれ、ラジオのアナウンサーとして、祖国アメリカ合衆国から反逆罪に問われます。本人はアメリカ軍人に対するプロパガンダ放送ではないと主張しましたが、戦争と人種差別の犠牲となったアイバは国籍を奪われました。それでも後悔はない、人を恨まないと、アメリカ人として信念を貫きました。収容所で亡くなった母親、財産を全て奪われた父親、家族の存在、ルーツ、語った真実は今を生きる私たちに多くのことを教えてくれます。戦前、戦中、戦後。太平洋戦争の時代と格闘し、強く生きた一市民の姿を板の上に克明に焼き付けたいと思います。

出演者は女性だけです。6 人がリレー式にアイバを演じ、全員でテーマを背負います。男性と女性、アメリカ人と日本人、差別する側とされる側、終戦後のアメリカでの裁判で、裁く側と不当にも裁かれる側を演じ分けます。台本、音楽、身体、テーマにカンパニー皆でとことん向き合いたいと考えます。演劇の言葉、新しい価値観を模索する可能性に挑戦をしたいと思います。観客の皆様には、新しいミュージカルの誕生を是非劇場で楽しんでいただけたらと思っております。

最後になりましたが、この作品を創り、私たちに日本初演の機会を与えてくれた BURNT LEMON THEATRE に心からの感謝と敬意を込めて。

## スタッフ プロフィール

## 小川絵梨子

OGAWA Eriko

※3 ページを参照



## 土器屋利行

DOKIYA Toshiyuki

ロンドン大学インペリアルカレッジを化学／経営学で卒業。『ミス・サイゴン』、『プリシラ』、『マイ・フェア・レディ』、『ラ・カージュ・オ・フォーール』、『ペテン師と詐欺師』、『モダン・ミリー』などに出演。『モンティ・パイソンのスパマロット』、『フル・モンティ』、『タイトル・オブ・ショウ』、『エドウィン・ドルードの謎』、『ヤング・フランケンシュタイン』、『ブロードウェイと銃弾』、『サムシング・ロッテン!』、『プロデューサーズ』、『アニー』（一部楽曲）、『BE MORE CHILL』、『MEAN GIRLS』（翻訳）などの翻訳・訳詞を手掛けるほか、グラミー賞やトニー賞生中継の通訳なども務める。

## 深沢桂子

FUKAZAWA Keiko

国立音楽大学ピアノ科卒。1987年、宮本亜門演出のShowStopperシリーズ第一弾『I GOT MERMAN』で音楽監督、編曲を務め、以来、数多くのミュージカル音楽監督を務める。2005年からオリジナルミュージカルを作曲。『VIVA! Forties』をはじめKAAT『ピノキオまたは白雪姫の悲劇』秋田わらび座、愛媛の坊っちゃん劇場への作品など数多く手がける。そのほか作曲・音楽監督として携わった主な作品に、11年『ヒロイン』、12年『Newヒロイン』、18年『DAY ZERO』、19年『イノサン』、22～23年『手紙』、23年坊っちゃん劇場『ジョンマイラブ』など。17年『手紙』において第24回読売演劇大賞上半期スタッフ賞ノミネート。

## 藤田俊太郎

FUJITA Shuntaro

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。在学中の2004年、ニナガワ・スタジオに入り、15年まで蜷川幸雄作品に演出助手として携わる。ミュージカル『The Beautiful Game』の演出で第22回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞を、ミュージカル『ジャージー・ボーイズ』の演出で第24回読売演劇大賞優秀演出家賞を、『ジャージー・ボーイズ』『手紙 2017』の演出で第42回菊田一夫演劇賞を、絢爛豪華祝祭音楽劇『天保十二年のシェイクスピア』、ミュージカル『NINE』『VIOLET』の演出で第28回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第42回松尾芸能賞優秀賞演劇部門をそれぞれ受賞。そのほかの主な演出作品に、『ラヴ・レターズ』『ミネオラ・ツインズ』『ピーター・パン』『Take Me Out』『sound theater VI・VII』『ダニーと紺碧の海』、美女音楽劇『人魚姫』『話してくれ、雨のように...』『喜劇一幕・虹艶聖夜』など。新国立劇場では、『東京ゴッドファーザーズ』を演出。



©KEI OGATA

2024年4～7月

<新作>

A New Play

# デカローク I ~ X

Dekalog

小劇場

●会員先行販売期間：2024年2/3(土)～2/13(火)

●一般発売日：2024年2/17(土)

原作：クシシュトフ・ケシロフスキ／クシシュトフ・ピエシエヴィチ

Original by Krzysztof KIESLOWSKI / Krzysztof PIESIEWICZ

翻訳：久山宏一

Translated by KUYAMA Koichi

上演台本：須貝 英

Scripted by SUGAI Ei

演出：小川絵梨子／上村聡史

Directed by OGAWA Eriko / KAMIMURA Satoshi

## 作品

ポーランド出身の世界的映画監督、クシシュトフ・ケシロフスキが発表した代表作のひとつ『デカローク』の十篇の物語を完全舞台化します。

『デカローク』は旧約聖書の十戒をモチーフに作られた1時間前後の十篇のドラマで構成されています。それぞれのエピソードは十戒がモチーフに使われ緩やかにリンクしていますが、全ての物語は1980年代のポーランド、ワルシャワのとある団地を舞台に、そこに住む人々についての普遍的な愛と人間の弱さを描く物語です。十篇の物語は、それぞれが独立した1時間前後の作品となっており、基本的にどの順番で見ても楽しむことができますが、別々の作品でありながら実はひそかなつながりを持っているという隠された楽しみもを見つけることができます。

上演台本を2022年『私の一ヶ月』の作家、須貝 英が担当。演出には小川絵梨子、上村聡史の二人があたります。

物語

## デカローグ I

「わたしのほかに神があってはならない」

大学教授の父と数学に強い息子の、ある過酷な運命。

大学の言語学の教授で無神論者の父クシシュトフは、12歳になる息子パヴェウと二人暮らしをしており、信心深い叔母イレナが父子を気にかけていた。パヴェウは父からの手ほどきでPCを使った数々のプログラム実験を重ねていたが……。

## デカローグ II

「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」

一人暮らしの医師と、愛人の子供を身籠った女性バイオリニストの対話と選択。

交響楽団のバイオリニストである30代の女性ドロタと彼女と同じアパートに住む老医師の二人。ドロタは重い病を患って入院している夫アンジェイの余命を至急知りたいと尋ねる。ドロタは愛人との間にできた男の子を妊娠していた……。

## デカローグ III

「主の日を心にとどめ、これを聖とせよ」

クリスマスイブを家族と祝う男の家を突然訪ねてくる元恋人の頼みとは？

クリスマスイブ。妻子とともにイブを過ごすべく、タクシー運転手のヤヌシュが帰宅する。子供たちの為にサンタクロース役を演じたりと仲睦まじい家族の時間を過ごすが、その夜遅くヤヌシュの自宅に元恋人の女性エヴァが現れ、ヤヌシュに失踪した夫と一緒に探してほしいと訴える……。

## デカローグ IV

「あなたの父母を敬え」

幸せに暮らす父と娘。父が娘に宛てた手紙の中身は？

快活で魅力的な演劇学校の生徒アンカは、父ミハウと二人暮らし。母はアンカが生まれた時に亡くなった。父娘はまるで友達同士の様に仲睦まじく生活していたが、ある日アンカは「死後開封のこと」と父の筆跡で書かれた封筒を見つける。その中身を見たアンカがとった行動とは……。

## デカローグ V

「殺してはならない」

タクシー運転手を殺害した青年と若い弁護士。死刑判決を受けた青年を救えなかった弁護士の悲嘆。

街中でたまたま、傲慢で好色な中年のタクシー運転手ヴァルデマルのタクシーに乗り込んだ20歳の青年ヤツェクは、人気のない野原で運転手の首を絞め命乞いする彼を撲殺する。殺人により法廷で有罪判決を受けたヤツェクの弁護を担当したのは、新米弁護士のピョトルだった……。

## デカローグVI

### 「姦淫してはならない」

向かいのアパートに住む魅力的な女性の部屋を望遠鏡で覗く青年の何も求めない愛とは？

友人の母親と暮らす 19 歳の孤児トメクは、地元の郵便局に勤めている。彼は向かいに住む 30 代の魅力的な女性マグダの生活を日々望遠鏡で覗き見していた。マグダと鉢合わせしたトメクは、彼女に愛を告白するが、自分に何を求めているのかとマグダに問われてもトメクは答えられない。その後デートをした二人、マグダはトメクを部屋に招き入れるが……。

## デカローグVII

### 「盗んではならない」

国語教師と女子高生の娘の間に生まれた子供を密かに自分の子供として育てて来た母親の真実。

両親と同居している 22 歳のマイカは、最終学期中に大学を退学。彼女は 6 歳の妹アニヤを連れてカナダに逃れたいと考えていた。実はアニヤはマイカが 16 歳の時に生んだ子供で父親はマイカが通っていた学校の国語教師ヴォイテクであった……。

## デカローグVIII

### 「隣人に関して偽証してはならない」

倫理学を教える大学教授とその受講生。受講生の質問は教授の隠された過去を暴いていく。

老いてはいるがスポーツ好きの女性大学教授ゾフィアの勤務先の大学に、ある日ゾフィアの著作の英訳者である女性大学教員エルジュピタが来訪する。ゾフィアの倫理学講義を聴講した彼女は、議論する為の倫理的問題提起の題材として第二次大戦中にユダヤ人の少女に起こった実話を語り始めるが、その内容は二人の過去に言及したものであった……。

## デカローグIX

### 「隣人の妻を欲してはならない」

性的不能と宣告された夫は妻に事実を告げる。夫を励ます妻だが実は妻には既に若い恋人がいた。

40 歳の外科医ロマンは、同業の友人から性的不能者になったと診断され、若い妻であるハンカと別れるべきではないかとほめかされる。夫婦は診断結果を話し合い、お互いに別れる気はないことを確認するが、実はハンカは若い大学生マリウシュと浮気をしていた……。

## デカローグX

### 「隣人の財産を欲してはならない」

父の死により久しぶりに再会した兄弟は、父の遺品によって予期せぬ事件に巻き込まれて行く。

パンクロックグループのリーダーである弟のアルトゥルは、コンサート会場にやってきた兄イェジーから、疎遠になっていた父スチュワフが亡くなったと告げられる。父のフラットを訪れた兄弟は、父親が膨大な切手コレクションを残していたことを知る。父のコレクションに計り知れない価値があることを知った兄弟は次第にコレクションへの執着を募らせ、偏執的になって行く……。

**翻訳家からのメッセージ****久山宏一**

ポーランド TV 局がケシロフスキ監督『デカローグ』の放映を始めたのは、中東欧の社会主義各国で民主化・市場経済化が駆け足で進行していた1989年12月です。ポーランドでは、その翌年に、ケシロフスキ+ピエシェヴィチ作『デカローグ』シナリオ集が刊行されました。版元はそのころ雨後の筍のように誕生し、やがて消滅していった民営企業の一つ、ワルシャワの北30キロほどに位置する村から、ロマン主義文学・亡命文学など旧体制で歓迎されなかったテーマの良書を届けていました。

すでに『デカローグ』に感銘を受けていた私は、ふらりと立ち寄った書店でそのシナリオ集に遭遇し、一瞬の迷いもなしに購入しました。映像と比較しながら通読し、一部をポーランド語の授業教材として使ったこともあります。この度、上演台本の叩き台になるシナリオ全訳を担当するという僥倖に恵まれました。

『デカローグ』全10話のシナリオは、1986年には完成していました。当初、ケシロフスキを含む10人の監督が分担して各話を演出することが予定されていました。とすれば、このテキストは私たちが知っているケシロフスキ版とは異なる視覚化の可能性を排除しない、むしろそれを前提としているともいえます。

新国立劇場の舞台でどのような『デカローグ』解釈と出会うことができるのか——期待はふくらみます。

**作家からのメッセージ****須貝 英**

この企画の参加を打診される電話を受けた時、まだまだコロナ禍により外出もままならない時期で、家で鬱々と仕事をしていましたが文字通り、飛び上がって喜んだのを覚えています。

劇作家ワークショップ、そして『私の一ヶ月』の上演で深く関わらせていただいた新国立劇場で再び作品作りができること、演出の小川絵梨子さん、上村聡史さんをはじめとした日本を代表する演劇人の皆さんとお仕事できること、大変光栄で身が引き締まります。

『デカローグ』は不思議な魅力に満ちた作品です。特殊な人はあまり出てこないのかもしれませんが。あるいは隣にいてもおかしくない人たち。国や時代は違えど、誰にでもありうる奇跡や不運、絆や因果が散りばめられています。氷、タクシー、黄ばんだ封筒。切手帳、ガラスの小瓶、幹線道路。授業、二枚の切符、ヴァイオリン、望遠鏡。一見なんでもないありふれた事柄に揺さぶられる彼らの姿が、近しく、どうしようもなく愛しい。ささやかでも鉄のように動かしがたい存在の力を感じます。この素晴らしい作品群に早く触れていただきたい。そして上演台本という形で、ささやかな僕も動かしがたく一翼を担えていればと強く思います。



**演出家からのメッセージ**

**小川絵梨子**

『デカローグ』を初めて見たのは今から20年ほど前のことで、その頃私はアメリカにおり2001年の同時多発テロが起きて間もない頃でした。それから年月が過ぎ、改めて『デカローグ』を見たのは、ウクライナへの侵攻が始まった頃でした。時代は変われど人間は繰り返し繰り返し惨劇を引き起こしていることを改めて感じると共に、『デカローグ』の描く人間の愛と苦しみに変わらず深く共感を覚えました。ケシロフスキ監督は『デカローグ』についての文章の中で、「この世には完全な正義が存在するとは思わない。今後も存在することはないだろう。が、私たちと等身大のちっぽけなスケールの正義は存在する」と語っていました。『デカローグ』では政治的なことは描かれていませんが、人間の普遍的な有り様として内面的葛藤や間違っただ言動、何をしたら正しいのかを理解していながらそれを選び取れない弱さ、そしてパンドラの箱の底に残ったような一筋の希望が描かれ、それによって人間という存在を見つめ直し、世界が少しでもより良い場所へ変化していくことを願う、祈りの物語であると感じています。

**上村聡史**

短編ドキュメンタリー映画で培われたリアリズム。そして、緻密に練られた画角と技法の中に、ときに静寂を嘯みしめ、ときに衝動に身をまかせる人間たち。二十世紀に独自の美意識でその名声を博したケシロフスキの世界観は、端的に言えば「映像の詩」だと私は思っています。なかでも、1989年に製作されたテレビドラマ『デカローグ』は、市井に生きる人々の愛と絶望を通し、観る側の感性を諦観の念へと導いてくれます。この映像の構図と俳優の演技の融合によって確立された物語を、ライブパフォーマンスならではの舞台芸術において、瞬間の美学を武器に、今一度、日々のささやかな欲望やふと襲う寂寥感、ありきたりな偶然に、価値を見出せる作品を仕立てたいと思います。

## スタッフ プロフィール

## クシシュトフ・キェシロフスキ

Krzysztof KIESLOWSKI

1941年6月27日、ポーランド・ワルシャワ生まれ。幼少期は父の仕事の都合で、ポーランド中を転々とする生活を送った。57年に舞台演出家を目指し国立演劇専門学校に入学するが、在学中に映画監督への道を志し、卒業後にロマン・ポランスキーやアンジェイ・ワイダなどを輩出したウッチ映画大学に入学した。66年に初の短編映画を製作。以後、80年までにドキュメンタリーを中心に多くの短編映画を手掛け、政治活動も活発に行う。76年、初の長編劇映画『傷跡』で劇場長編デビュー。2作目の『アマチュア』でモスクワ国際映画祭グランプリを受賞、シカゴ国際映画祭でゴールデン・ヒューゴ賞を受賞した。しかし検閲が厳しくなるとともに、キェシロフスキの活動も制限されるようになる。81年の『偶然』は検閲による上映禁止処分を受け、6年後の87年に公開された。

その後、88年から聖書の十戒をモチーフとした10編からなる長編TVシリーズ『デカローク』を製作。本作の完成前に第5話と第6話を劇場公開用に編集した『殺人に関する短いフィルム』と『愛に関する短いフィルム』を発表。カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞するなど国際的に高い評価を受ける。『デカローク』はヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞を受賞し、映画監督のスタンリー・キューブリックから「重要な映画」と激賞された。

91年にはポーランドとフランスを舞台にした『ふたりのベロニカ』を発表。再びカンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞し、主演のイレヌ・ジャコブも主演女優賞を受賞した。93年からはフランス政府の依頼でフランス国旗の三色の象徴「自由・平等・博愛」をモチーフにした『トリコロール三部作』を製作する。93年に第1作となる『トリコロール/青の愛』を発表。ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞を受賞、主演のジュリエット・ピノシュは主演女優賞を受賞した。

『トリコロール三部作』を完結させた後、映画監督を引退することを宣言するが、95年に復帰。ダンテの『神曲』をモチーフにした「地獄篇・地上篇・天上篇」三部作の脚本に取り掛かる。しかし、長年患ってきた心臓病の手術を拒否し、96年に心臓発作でこの世を去った。遺稿となった『天上篇』は2002年にトム・ティクヴァ監督により『ヘヴン』として映画化、『地獄篇』は05年にダニス・タノヴィッチ監督により『美しき運命の傷痕』として映画化され、それぞれ公開された。

## 久山宏一

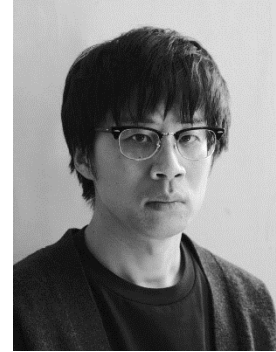
KUYAMA Koichi

東京外国語大学卒業。アダム・ミツキエーヴィチ大学にて博士号取得。現在、東京外国語大学など非常勤講師、ポーランド広報文化センターエキスパート。専門はポーランドとロシアの文学・文化。ポーランド語翻訳・通訳。訳書にスタニスワフ・レム『大失敗』、アダム・ミツキエーヴィチ『ソネット集』『コンラット・ヴァレンロット』など。タデウシュ・スウォボジャネク『NASZA KLASA (ナシャ・クラサ)』(文学座・高瀬久男演出) 共訳者。

## 須貝 英

SUGAI Ei

早稲田大学第一文学部美術史学科卒。2007年～13年まで「箱庭田舞曲」に俳優として所属。10年、演劇ユニット「monophonic orchestra」を旗揚げ。俳優・脚本家・演出家・ワークショップ講師として活動する一方、演劇サークル「Mo'xtra」を主宰。これまでの主な劇作・演出作品に穂の国とよはし芸術劇場PLAT主催・高校生と創る演劇『滅びの子らに星の祈りを』、海外ミステリーを原案としたMo'xtra Produce『グリーン・マダー・ケース x ビショップ・マダー・ケース』などがある。そのほか『オリエント急行殺人事件』の構成協力、『照くん、カミってる！～宇曾月家の一族殺人事件～』の脚本を務める（共に演出・河原雅彦）。北区王子小劇場主催佐藤佐吉賞にて09年度最優秀主演男優賞を受賞。また、脚本を担当した映画『カラオケの夜』（山田佳奈監督）が門真国際映画祭2019にて映画部門最優秀作品賞を受賞。新国立劇場では22年11月上演の『私の一ヶ月』を執筆。



## 小川絵梨子

OGAWA Eriko

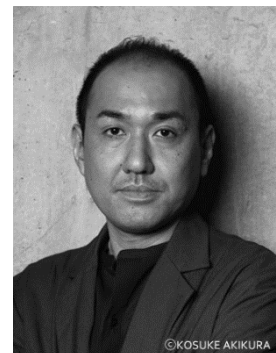
※3ページを参照



## 上村聡史

KAMIMURA Satoshi

2001年文学座附属演劇研究所に入所。09年より文化庁新進芸術家海外研修制度により1年間イギリス・ドイツに留学。18年に文学座を退座。第56回紀伊國屋演劇賞、第22回・第29回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第17回千田是也賞など受賞。近年の主な演出作品に、『4000マイルズ』『A・NUMBER』『野鴨-Vildanden-』『ガラスの動物園』『森 フォレ』『Oslo (オスロ)』『ミセス・クライン』『終夜』『岸 リトラル』『炎アンサンディ』など。新国立劇場では、『斬られの仙太』『オレスティア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。23年4～5月の『エンジェルス・イン・アメリカ』の演出も担う。



# Drama

プロジェクト

こつこつプロジェクト — ディベロップメント —  
・こつこつプロジェクト Studio 公演

---

ギャラリープロジェクト

---

---

---

# こつこつプロジェクト — ディベロップメント —

## ・こつこつプロジェクト Studio 公演

KOTSUKOTSU Project — Development —

---

### 概要

「作り手が通常の一か月の稽古ではできないことを試し、作り、壊して、また作る場にしたい。」という小川芸術監督の意を受け、長期に渡って作品を育てていくプロジェクト。具体的には、3～4か月ごとに試演を実施し、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフが協議を重ね、上演作品がどの方向に育っていくのか、またその方向性が妥当なのか、そしてその先の展望にどのような可能性が待っているのかを見極めていきます。時間に追われない稽古のなかで、作り手の全員が問題意識を共有し、作品への理解を深めることで、舞台芸術の奥深い豊かさを一人でも多くの観客の方々に伝えられる公演となることを目標とします。

2021年12月に、第一期に参加した西沢栄治演出の『あーぶくたった、にいたった』を本公演として上演。第二期に参加した柳沼昭徳演出の『夜の道づれ』は、「こつこつプロジェクトStudio公演」という新たな目標に向けてプロジェクト継続中です。さらに船岩祐太構成・演出の『テーバイ』も上演に向けての準備を進めています。

また現在、新たに第三期スタートに向けて準備中です。

### 第一期 (2019年3月～2020年3月)

『スペインの戯曲』	作：ヤスミナ・レザ	演出：大澤 遊
『リチャード三世』	作：ウィリアム・シェイクスピア	構成・演出：西 悟志
『あーぶくたった、にいたった』	作：別役 実	演出：西沢栄治

### 第二期 (2021年4月～2022年2月)

『フストーリーズ』	作：モーリス・パニッチ	演出：福山桜子
『テーバイ』	原作：ソフォクレス (『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』より)	構成・演出：船岩祐太
『夜の道づれ』	作：三好十郎	演出：柳沼昭徳

---

---

# ギャラリープロジェクト

GALLERY Project

---

## 概要

—ギャラリープロジェクトとは？

新国立劇場では演劇芸術監督小川絵梨子の方針の下、演劇の作り手の方々との交流を深め積極的に連携して、幅広い観客層に演劇をお届けしたいと思っています。そのために、一般の方々に向けてのワークショップや講演などを実施しており、その一環としての演劇イベントが「ギャラリープロジェクト」です。

舞台という豊かな世界を、一人でも多くの皆様に楽しんでいただければ幸いです。

それぞれの詳細は、随時ウェブなどで発信します。

2020年夏より、新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策のため、ギャラリープロジェクトをご自宅でもお楽しみいただけるよう、下記ラインアップ等をオンライン配信しております。

### ○トークセッション

〈演劇のおしごと〉

演劇に携わるクリエイターや団体との「横の繋がり」を広げ、その仕事に迫るトークセッション。

毎回様々なジャンルからゲストを迎え、進行役の小川絵梨子芸術監督と普段なかなか知ることができない仕事について掘り下げていきます。

〈演劇噺（えんげきばなし）〉

毎回様々なゲストを迎えて、演劇に関する「あんな話、こんな話」を語っていただくシリーズ企画です。

小川絵梨子芸術監督が進行役となって、ゲストと舞台の面白さ、奥深さを探っていきます。

### ○ワークショップ

毎年夏休みの時期、中高生を対象に、日本の演劇界の第一線で活躍するスタッフ、クリエイター、俳優の特別講義やワークショップを行う「中高生のためのどっぷり演劇days」を開催しています。

また、参加者の中高生だけでなく、老若男女問わず、たくさんの方に“どっぷり”演劇の魅力に浸っていただきたく、ご自身でさらに知識を深めることができるコンテンツを集めた、「どっぷり演劇ふかぼりコンテンツ」ページを公開しております。

### ○公演ガイドツアー

公演中の劇場にて、公演スタッフが舞台美術の説明や開幕に至るまでの足跡等を解説いたします。

# Drama

公演一覧

開場記念公演～2022/2023 シーズン

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
開場記念公演	★紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子	1997. 10/22
	[蒲田行進曲完結編]銀ちゃんが逝く	つかこうへい		つかこうへい	1997. 11/13
	夜明け前	原作 島崎藤村	脚色 村山知義 補訂脚本 津上 忠	木村光一	1997. 12/04
	リア王	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	鶴山 仁	1998. 1/17
1998/ 1999	★虹を渡る女	岩松 了		岩松 了	1998. 5/07
	幽霊はここにいる	安部公房		串田和美	1998. 5/12
	★今宵かぎりは… 1928 超巴里主義宣言の夜	竹内統一郎		栗山民也	1998. 6/12
	★音楽劇 ブッダ	原作 手塚治虫	脚本 佐藤 信	栗山民也	1998. 9/07
	<b>THE PIT フェスティバル</b>				
	カストリ・エレジー スタインベック「二十日鼠と人間」 より	脚本 鐘下辰男		鐘下辰男	1998. 10/03
	神々の国の首都	坂手洋二		坂手洋二	1998. 10/17
	寿歌	北村 想		北村 想	1998. 10/29
	ディア・ライアー すてきな嘘つき	ジェローム・キルティ	丹野郁弓	宮田慶子	1998. 11/04
	野望と夏草	山崎正和		西川信廣	1998. 12/02
	★新・雨月物語		脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	1999. 1/11
	子午線の祀り	木下順二	演出 観世栄夫／内山 鶴／酒井 誠／高瀬精一郎		1999. 2/03
	セツァンの善人	ベルトルト・ブレヒト	松岡和子	串田和美	1999. 5/18
	羅生門	原作 芥川龍之介		構成・演出 渡辺和子	1999. 6/04
棋人 -チャーレン-	過 士行	菱沼彬晃	林 兆華	1999. 7/01	
1999/ 2000	キーン 或いは狂気と天才	J.P.サルトル 上演台本 栗山民也／江守 徹	鈴木力衛	栗山民也	1999. 10/04
	美しきものの伝説		宮本 研	木村光一	1999. 11/04
	<b>一森本薫の世界一</b>				
	かくて新年は	森本 薫		宮田慶子	1999. 12/08
	怒濤	森本 薫		マキノノゾミ	2000. 1/11
	華々しき一族	森本 薫		鐘下辰男	2000. 2/09
	★新・地獄変	原作 芥川龍之介	脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	2000. 3/23
	なよたけ	加藤道夫		木村光一	2000. 4/11
夜への長い旅路	ユージン・オニール	沼澤洽治	栗山民也	2000. 5/11	
2000/ 2001	マクベス	ウィリアム・シェイクスピア	福田恒存翻訳より 潤色 鐘下辰男	鐘下辰男	2000. 9/08
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2000. 10/02
	欲望という名の電車	テネシー・ウィリアムズ	鳴海四郎	栗山民也	2000. 10/20
	<b>シリーズ「時代と記憶」</b>				
	★memorandum メモランダム	構想・構成 ダムタイプ			2000. 11/27
	★母たちの国へ	松田正隆		西川信廣	2001. 1/10
	★ピカドン・キジムナー	坂手洋二		栗山民也	2001. 2/10
	★こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2001. 3/12
	★夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2001. 5/08
	紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子／井上ひさし	2001. 4/04
	贋作・桜の森の満開の下	野田秀樹		野田秀樹	2001. 6/01

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2001/ 2002	海外招待作品 Vol.1 太陽劇団 堤防の上の鼓手	エレヌ・シクスー	字幕翻訳 松本伊瑳子	アリアヌ・ムヌーシュキン	2001. 9/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2001. 10/29
	★美女で野獣	荻野アンナ		宮田慶子	2001. 12/10
	シリーズ チェーホフ・魂の仕事				
	Vol.1 かもめ	アントン・チェーホフ	英訳 マイケル・フレイン 翻訳 小田島雄志	マキノノゾミ	2002. 1/11
	Vol.2 くしゃみ/the Sneeze	アントン・チェーホフ	台本 マイケル・フレイン 翻訳 小田島恒志	熊倉一雄	2002. 2/28
	Vol.3 ★「三人姉妹」を追放されし トウゼンバフの物語	岩松 了		岩松 了	2002. 4/01
	Vol.4 ワーニャおじさん 四幕の田園生活劇	アントン・チェーホフ	小野理子	栗山民也	2002. 5/09
	Vol.5 櫻の園	アントン・チェーホフ	潤色 堀越 真(神西清翻訳による)	栗山民也	2002. 6/21
★その河をこえて、五月	平田オリザ/金 明和		李 炳焄/平田オリザ	2002. 6/03	
2002/ 2003	海外招待作品 Vol.2 国際チェーホフ演劇祭 in モスクワ ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア		ペーター・シュタイン	2002. 9/07
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2002. 10/11
	★アヤジルシ -誘われて	太田省吾		太田省吾	2002. 11/12
	シリーズ「現在へ、日本の劇」				
	①ピルグリム	鴻上尚史		鴻上尚史	2003. 1/14
	②浮標	三好十郎		栗山民也	2003. 2/19
	③マッチ売りの少女	別役 実		坂手洋二	2003. 4/08
	④サド侯爵夫人	三島由紀夫		鐘下辰男	2003. 5/26
	★涙の谷、銀河の丘	松田正隆		栗山民也	2003. 5/13
★ゴロヴリョフ家の人々	原作 サルティコフ・シチェドリ 脚本 永井 愛	翻訳 湯浅芳子 脚本 永井 愛	永井 愛	2003. 6/18	
2003/ 2004	★nocturne -月下の歩行者	構成 松本雄吉		松本雄吉	2003. 9/08
	★夢の泪	井上ひさし		栗山民也	2003. 10/09
	世阿彌	山崎正和		栗山民也	2003. 11/27
	シリーズ「女と男の風景」				
	①海外招待作品 Vol.3 香港・劇場組合 The Game /ザ・ゲーム	ウジェーヌ・イヨネスコの悲喜劇 『椅子』より 翻案 ジム・チム/ オリヴィア・ヤン	字幕 角田美知代	ジム・チム/ オリヴィア・ヤン	2004. 2/20
	② ★THE OTHER SIDE ／線のむこう側	アリエル・ドーフマン	水谷八也	孫 振策	2004. 4/12
	③★てのひらのこびと		鈴江俊郎	松本祐子	2004. 5/11
	④請願 -静かな叫び-	ブライアン・クラーク	吉原豊司	木村光一	2004. 6/22
	こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2004. 3/10
透明人間の蒸気	野田秀樹		野田秀樹	2004. 3/17	
ブロードウェイ・ミュージカル INTO THE WOODS	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2004. 6/09	

★=新作



シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2004/ 2005	THE LOFT 小空間からの提案				
	胎内	三好十郎		栗山民也	2004. 10/04
	◎ ★ヒトノカケラ	篠原久美子		宮崎真子	2004. 10/22
	★二人の女兵士の物語	坂手洋二		坂手洋二	2004. 11/08
	喪服の似合うエレクトラ	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2004. 11/16
	★城	原作 フランツ・カフカ	構成 松本 修	松本 修	2005. 1/14
	シリーズ 笑い				
	①花咲く港	菊田一夫		鶴山 仁	2005. 3/14
	②★コミュニケーションズ 現代劇作家によるコント集	作 綾田俊樹/いとうせいこう/ケラリーノ・サンドロヴィッチ/杉浦久幸 高橋徹郎/竹内 佑/鄭 義信/土田英生/別役 実/ふじきみつ彦/武藤真弓 原作使用 筒井康隆		構成・演出 渡辺えり子	2005. 4/08
	③★箱根強羅ホテル	井上ひさし		栗山民也	2005. 5/19
	④うら騒ぎ ノイズズ・オフ	マイケル・フレイン	小田島恒志	白井 晃	2005. 6/27
	その河をこえて、五月	平田オリザ/金 明和		李 炳焄/平田オリザ	2005. 5/13
海外招待作品 Vol.4 ベルリナー・アンサンブル アルトゥロ・ウイの興隆	ベルトルト・ブレヒト	イヤホンガイド翻訳 新野守広	ハイナー・ミュラー	2005. 6/22	
2005/ 2006	◎黒いチューリップ/盲導犬	唐 十郎		中野敦之	2005. 9/27
	◎屋上庭園/動員挿話	岸田國士		宮田慶子<屋上庭園> 深津篤史<動員挿話>	2005. 10/31
	母・肝っ玉とその子供たち -三十年戦争年代記	ベルトルト・ブレヒト	谷川道子	栗山民也	2005. 11/28
	ガラスの動物園	テネシー・ウィリアムズ	小田島雄志	イリーナ・ブルック	2006. 2/09
	十二夜	ウィリアム・シェイクスピア	脚本 山崎清介 小田島雄志翻訳による	山崎清介	2006. 3/07
	シリーズ「われわれは、どこへいくのか」				
	①★カエル	過 士行	菱沼彬晃	鶴山 仁	2006. 4/01
	◎ ②★マテリアル・ママ		岩松 了	岩松 了	2006. 4/19
	③★やわらかい服を着て	永井 愛		永井 愛	2006. 5/22
	④★夢の痲	井上ひさし		栗山民也	2006. 6/28
	ブロードウェイ・ミュージカル Into the Woods	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2006. 5/19
	★アジアの女	長塚圭史		長塚圭史	2006. 9/28
2006/ 2007	「劇的な情念をめぐって」-世界の名作より-				
	シラノ・ド・ベルジュラック	原作 エドモン・ロスタン	翻訳 辰野 隆/ 鈴木信太郎	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/02
	イワーノフ/ オイディプス王	原作 アントン・チェーホフ 原作 ソフォクレス	翻訳 池田健太郎 日本語 福田恒存 ドイツ語 ヘルダーリン	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/04
	◎ ★エンジョイ	岡田利規		岡田利規	2006. 12/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2007. 3/01
	★CLEANSKINS /きれいな肌	シャン・カーン	小田島恒志	栗山民也	2007. 4/18
	★下周村 -花に嵐のたとえもあるさ-	平田オリザ/李 六乙		李 六乙/平田オリザ	2007. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	ジョン・ケアード	2007. 5/31
	氷屋来たる	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2007. 6/18

★=新作 ◎=THE LOFT 公演

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2007/ 2008	「三つの悲劇」ーギリシャから				
	Vol.1 ★アルゴス坂の白い家 ークリュタイムストラー	川村 毅		鶴山 仁	2007. 9/20
	Vol.2 ★たとえば野に咲く花のように ーアンドロマケー	鄭 義信		鈴木裕美	2007. 10/17
	Vol.3 ★異人の唄 ーアンティゴネー	土田世紀	脚色 鐘下辰男	鐘下辰男	2007. 11/14
	屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	2008. 2/26
	★焼肉ドラゴン	鄭 義信		梁 正雄／鄭 義信	2008. 4/17
	オットーと呼ばれる日本人	木下順二		鶴山 仁	2008. 5/27
	シリーズ・同時代				
	Vol.1 ★鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2008. 6/11
	Vol.2 ★混じりあうこと、消えること	前田司郎		白井 晃	2008. 6/27
Vol.3 ★まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	2008. 7/14	
2008/ 2009	近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』	三島由紀夫		前田司郎〈綾の鼓〉 深津篤史〈弱法師〉	2008. 9/25
	山の巨人たち	ルイジ・ピランデルロ	翻訳 田之倉稔	ジョルジュ・ラヴオーダン	2008. 10/23
	舞台は夢 ーイリュージョン・コミックー	ピエール・コルネイユ	翻訳 伊藤 洋	鶴山 仁	2008. 12/03
	シリーズ・同時代【海外編】				
	Vol.1 昔の女	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	倉持 裕	2009. 3/12
	Vol.2 シュート・ザ・クロウ	オーウェン・マカファーティ	翻訳 浦辺千鶴／ 小田島恒志	田村孝裕	2009. 4/10
	Vol.3 タトゥー	デーア・ローアー	翻訳 三輪玲子	岡田利規	2009. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	ジョン・ケアード	2009. 5/29
★現代能楽集 鶴	坂手洋二		鶴山 仁	2009. 7/02	
2009/ 2010	ヘンリー六世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 百年戦争				2009. 10/27
	第二部 敗北と混乱				2009. 10/28
	第三部 薔薇戦争				2009. 10/29
	象	別役 実		深津篤史	2010. 3/05
	東京裁判三部作	井上ひさし		栗山民也	
	夢の裂け目				2010. 4/04
	夢の泪				2010. 5/06
	夢の痂かさぶた				2010. 6/03
	★エネミー	蓬萊竜太		鈴木裕美	2010. 7/01
2010/ 2011	[JAPAN MEETS... ー現代劇の系譜をひもとくー]				
	I ヘッダ・ガーブレル	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2010. 9/17
	II やけたトタン屋根の上の猫	テネシー・ウィリアムズ	翻訳 常田景子	松本祐子	2010. 11/09
	III わが町	ソートン・ワイルダー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2011. 1/13
	IV ゴドーを待ちながら	サミュエル・ベケット	翻訳 岩切正一郎	森 新太郎	2011. 4/15
	焼肉ドラゴン	鄭 義信	翻訳 川原賢柱	鄭 義信	2011. 2/07
	鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2011. 5/10
	雨	井上ひさし		栗山民也	2011. 6/09
	★おどくみ	青木 豪		宮田慶子	2011. 6/27

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2011/ 2012	<b>【美×劇】</b> —滅びゆくものに託した美意識—				
	I 朱雀家の滅亡	三島由紀夫		宮田慶子	2011. 9/20
	II ★イロアセル	倉持 裕		鶴山 仁	2011. 10/18
	III 天守物語	泉 鏡花		白井 晃	2011. 11/05
	★パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2012. 3/05
	まぼろば	蓬萊竜太		栗山民也	2012. 4/02
	負傷者 16 人 —SIXTEEN WOUNDED—	エリウム・クライエム	翻訳 常田景子	宮田慶子	2012. 4/23
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
V サロメ	オスカー・ワイルド	翻訳 平野啓一郎	宮本亜門	2012. 5/31	
VI 温室	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	深津篤史	2012. 6/26	
2012/ 2013	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2012. 10/03
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
	VII りつぽ	アーサー・ミラー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2012. 10/29
	★音のいない世界で	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2012. 12/23
	長い墓標の列	福田善之		宮田慶子	2013. 3/07
	<b>With 一つながる演劇—</b>				
	★ウェールズ編『効率学のススメ』	アラン・ハリス	翻訳 長島 確	ジョン・E・マグラ	2013. 4/09
	★韓国編 アジア温泉	鄭 義信	翻訳 朴 賢淑	孫 振策	2013. 5/10
★ドイツ編 つく、きえる	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	宮田慶子	2013. 6/04	
象	別役 実		深津篤史	2013. 7/02	
2013/ 2014	<b>Try・Angle —三人の演出家の視点—</b>				
	Vol.1 OPUS / 作品	マイケル・ホリンガー	翻訳 平川大作	小川絵梨子	2013. 9/10
	Vol.2 エドワード二世	クリストファー・マーロウ	翻訳 河合祥一郎	森 新太郎	2013. 10/08
	Vol.3 アルトナの幽閉者	ジャン＝ポール・サルトル	翻訳 岩切正一郎	上村聡史	2014. 2/19
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
	VIII ピグマリオン	ジョージ・バーナード・ショー	翻訳 小田島恒志	宮田慶子	2013. 11/13
	マニラ瑞穂記	秋元松代		栗山民也	2014. 4/03
	テンベスト	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	白井 晃	2014. 5/15
★十九歳のジェイコブ	原作 中上健次	脚本 松井 周	松本雄吉	2014. 6/11	
永遠の一瞬 —Time Stands Still —	ドナルド・マーグリーズ	翻訳 常田景子	宮田慶子	2014. 7/08	
2014/ 2015	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
	IX 三文オペラ	ベルトルト・ブレヒト	翻訳 谷川道子	宮田慶子	2014. 9/10
	<b>二人芝居 —対話するカー—</b>				
	Vol.1 プレス・オブ・ライフ～女の肖像～	デイヴィッド・ヘア	翻訳 鶴澤麻由子	蓬萊竜太	2014. 10/08
	Vol.2 ご臨終	モーリス・パニッチ	翻訳 吉原豊司	ノゾエ征爾	2014. 11/05
	Vol.3 星ノ数ホド	ニック・ペイン	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2014. 12/03
	ウィンズロウ・ボーイ	テレンス・ラティガン	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2015. 4/09
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
X 海の夫人	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2015. 5/13	
東海道四谷怪談	鶴屋南北	上演台本 フジノサツコ	森 新太郎	2015. 6/10	
★かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2015. 7/06	

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2015/ 2016	パッション	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェームス・ラパイン	翻訳 浦辺千鶴 訳詞 竜 真知子	宮田慶子	2015. 10/16
	桜の園	アントン・チェーホフ	翻訳 神西 清	鶴山 仁	2015. 11/11
	バグダッド動物園のベンガルタイガー	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 平川大作	中津留章仁	2015. 12/08
	<b>鄭義信 三部作</b>				
	焼肉ドラゴン	鄭 義信		鄭 義信	2016. 3/07
	たとえば野に咲く花のように	鄭 義信		鈴木裕美	2016. 4/06
	パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2016. 5/17
	あわれ彼女は娼婦	ジョン・フォード	翻訳 小田島雄志	栗山民也	2016. 6/08
★「かぐや姫伝説」より月・こうこう・風・そうそう	別役 実		宮田慶子	2016. 7/13	
2016/ 2017	フリック	アニー・ベイカー	翻訳 平川大作	マキノノゾミ	2016. 10/13
	ヘンリー四世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 -混沌-				2016. 11/26
	第二部 -戴冠-				2016. 11/27
	<b>かさなる視点 —日本戯曲のカー-</b>				
	Vol.1 白蟻の巣	三島由紀夫		谷 賢一	2017. 3/02
	Vol.2 城塞	安部公房		上村聡史	2017. 4/13
	Vol.3 マリアの首 -幻に長崎を想う曲-	田中千禾夫		小川絵梨子	2017. 5/10
	<b>[JAPAN MEETS... —現代劇の系譜をひもとく—]</b>				
	XI 君が人生の時	ウィリアム・サローヤン	翻訳 浦辺千鶴	宮田慶子	2017. 6/13
XII 怒りをこめてふり返れ	ジョン・オズボーン	翻訳 水谷八也	千葉哲也	2017. 7/12	
2017/ 2018	トロイ戦争は起こらない	ジャン・ジロドゥ	翻訳 岩切正一郎	栗山民也	2017. 10/05
	プライムたちの夜	ジョーダン・ハリソン	翻訳 常田景子	宮田慶子	2017. 11/07
	かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2017. 12/05
	赤道の下のマクベス	鄭 義信		鄭 義信	2018. 3/06
	1984	原作 ジョージ・オーウェル	脚本 ロバート・アイク ／ダンカン・マクミラン 翻訳 平川大作	小川絵梨子	2018. 4/12
	ヘンリー五世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2018. 5/17
	夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2018. 6/04
	★消えていくなら朝	蓬萊竜太		宮田慶子	2018. 7/12
2018/ 2019	誤解	アルベール・カミュ	翻訳 岩切正一郎	稲葉賀恵	2018. 10/04
	誰もいない国	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	寺十 吾	2018. 11/08
	スカイライト	デイヴィッド・ヘア	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2018. 12/06
	<b>フルオーディション1</b>				
	かもめ	作 アントン・チェーホフ 台本 トム・ストップパード	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2019. 4/11
	★少年王者館 1001	天野天街		天野天街	2019. 5/14
	オレスティア	原作 アイスキュロス 作 ロバート・アイク	翻訳 平川大作	上村聡史	2019. 6/06
	★骨と十字架	野木萌葱		小川絵梨子	2019. 7/11
	<b>こつこつプロジェクト -ディベロップメント-</b>				
	リーディング公演				
リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	西 悟志	2019. 3/13	
あーぶくたつた、にいたつた	別役 実		西沢栄治	2019. 3/14	
スペインの戯曲	ヤスミナ・レザ	翻訳 穴澤万里子	大澤 遊	2019. 3/15	

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2019/ 2020	ことぜんシリーズ				
	Vol.1 どん底	マクシム・ゴーリキー	翻訳 安達紀子	五戸真理枝	2019. 10/03
	Vol.2 あの出来事	デイヴィッド・グレッグ	翻訳 谷岡健彦	瀬戸山美咲	2019. 11/13
	Vol.3 タージマハルの衛兵	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 小田島創志	小川絵梨子	2019. 12/07
	フルオーディション 2				
	反応工程(公演中止)	宮本 研		千葉哲也	
	ガールズ&ボーイズ(公演中止)	デニス・ケリー	翻訳 小田島創志	蓬萊竜太	
	願いがかなうぐつぐつカクテル	ミヒヤエル・エンデ	翻訳 高橋文子	小山ゆうな	2020. 7/09
★イヌビト ～犬人～	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2020. 8/05	
2020/ 2021	ガラスの動物園(公演中止)	テネシー・ウイリアムズ		イヴォ・ヴァン・ホーヴェ	
	リチャード二世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2020. 10/02
	ピーター&ザ・スターキャッチャー	作 リック・エリス 原作 デイヴ・バリー、 リドリー・ピアスン	翻訳 小宮山智津子	ノゾエ征爾	2020. 12/10
	人を思うちから				
	フルオーディション3 其の壱 斬られの仙太	三好十郎		上村聡史	2021. 4/06
	★其の貳 東京ゴッドファーザーズ	原作 今 敏 上演台本 土屋理敬		藤田俊太郎	2021. 5/12
	其の参 キネマの天地	井上ひさし		小川絵梨子	2021. 6/10
	フルオーディション 2				
反応工程	宮本 研		千葉哲也	2021. 7/12	
2021/ 2022	ガラスの動物園(公演中止)	テネシー・ウイリアムズ		イヴォ・ヴァン・ホーヴェ	
	フルオーディション 4				
	イロアセル	倉持 裕		倉持 裕	2021. 11/11
	あーぶくたつた、にいたつた	別役 実		西沢栄治	2021. 12/07
	声 議論、正論、極論、批判、対話...の物語				
	Vol.1 アンチポデス	アニー・ベイカー	翻訳 小田島創志	小川絵梨子	2022. 4/14
Vol.2 ロビー・ヒーロー	ケネス・ロナーガン	翻訳 浦辺千鶴	桑原裕子	2022. 5/06	
Vol.3 貴婦人の来訪	フリードリヒ・デュレンマット	翻訳 小山ゆうな	五戸真理枝	2022. 6/01	
2022/ 2023	ガラスの動物園	テネシー・ウイリアムズ		イヴォ・ヴァン・ホーヴェ	2022. 9/28
	レオポルトシュタット	トム・ストッパード	翻訳 広田敦郎	小川絵梨子	2022. 10/14
	未来につなぐもの				
	★Ⅰ 私の一ヶ月	須貝 英		稲葉賀恵	2022. 11/02
	★Ⅱ 夜明けの寄り鯨	横山拓也		大澤 遊	2022. 12/01
	フルオーディション 5				
	エンジェルス・イン・アメリカ	トニー・クシュナー	翻訳 小田島創志	上村聡史	2023. 4/18
	未来につなぐもの				
★Ⅲ 楽園	山田佳奈		眞鍋卓嗣	2023. 6/08	
★モグラが三千あつまって	原作 武井 博 上演台本 長塚圭史	振付 近藤良平 音楽 阿部海太郎	長塚圭史	2023. 7/14	

★=新作

---

# MEMO

---

# MEMO

---

# MEMO